

政策「見直し」口先だけ！

麻生政権では何も変わらな

自民・公明連立の麻生新政権が9月24日、発足しました。麻生氏は自民党総裁選挙の最中、国民の批判が強い「後期高齢者医療制度」について、75歳以上という年齢で切り分ける点などに具体的に触れながら、その見直しに意欲を見せました。しかし、自公連立政権合意は、法律に定められている「5年後の見直し」を前倒しすることにとどまり、見直しの中身はまったく明らかになりませんでした。

麻生氏ら政府・与党幹部はほかにも、消費税率引き上げの3年間凍結や

社会保障費の伸びの年2200億円削減見直しなどを語りましたが、全部口先だけになってしまおうおそれがあります。

自民党総裁選は、候補者がやたらに乱立するばかりで、それぞれの違いが一向にはつきりせず、「変わるかもしれない」というムードをかもしだすだけに終わりました。自民党にはもう、政治を変える力はないのです。



自公政権を取り換えて

麻生新首相には、小泉政権以来続く「自衛隊海外派兵」、そして、弱肉強食の「構造改革」の政策を改めるつもりはありません。こうした政治を変えるためには、自公連立という政治の枠組みそのものを変えなければなりません。社民党は、国民の声に背を向ける自公政権を倒し、真の政策転換を実現します。

社民党